TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　334語

The Cat and the Old Rat

ネコと年とったネズミ

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：A LibriVox Volunteer

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　ネズミをつかまえようと、ネコはいろいろな知恵をしぼります。死んだふりの次は、こなまみれの作戦！ ところが、年とったネズミが……。



There was once a Cat who was so watchful, that a Mouse hardly dared show the tip of his whiskers for fear of being eaten alive. That Cat seemed to be everywhere at once with his claws all ready for a pounce. At last the Mice kept so closely to their dens, that the Cat saw he would have to use his wits well to catch one. So one day he climbed up on a shelf and hung from it, head downward, as if he were dead, holding himself up by clinging to some ropes with one paw.

When the Mice peeped out and saw him in that position, they thought he had been hung up there in punishment for some misdeed. Very timidly at first they

stuck out their heads and sniffed about carefully. But as nothing stirred, all trooped joyfully out to celebrate the death of the Cat.

Just then the Cat let go his hold, and before the Mice recovered from their surprise, he had made an end of three or four.

Now the Mice kept more strictly at home than ever. But the Cat, who was still hungry for Mice, knew more tricks than one. Rolling himself in flour until he was covered completely, he lay down in the flour bin, with one eye open for the Mice.

Sure enough, the Mice soon began to come out. To the Cat it was almost as if he already had a plump young Mouse under his claws, when an old Rat, who had had much experience with Cats and traps, and had even lost a part of his tail to pay for it, sat up at a safe distance from a hole in the wall where he lived.

"Take care!" he cried. "That may be a heap of meal, but it looks to me very much like the Cat. Whatever it is, it is wisest to keep at a safe distance."

> **The wise do not let themselves be tricked a second time.**

和訳 ネコと年とったネズミ（The Cat and the Old Rat）

むかし、とても目ざといネコがいました。そのネコのせいで、ネズミたちは食べられるのがこわくて、ひげの先さえ出せないほどでした。そのネコは、つめをいつでもとびかかれるようにかまえて、どこにでもいるように思えました。とうとうネズミたちが穴からまったく出てこなくなったので、ネコは、一ぴきつかまえるには、よほど頭を使わなければならないと思いました。そこである日、ネコはたなの上にのぼり、片方の前足でひもにつかまって、頭を下にして、死んだようにぶら下がりました。

ネズミたちがそっとのぞいて、ネコがそんなかっこうをしているのを見ると、なにか悪いことをしたばつに、そこにつるされたのだと思いました。はじめはとてもこわごわと頭を出して、用心しながらくんくんとにおいをかぎました。でもなにもうごかないので、ネズミたちはネコがいなくなったお祝いをしようと、みんなでうれしそうに出てきました。

そのとたん、ネコはつかまっていた手をはなし、ネズミたちがびっくりしているうちに、三びきか四ひきをやっつけてしまいました。

それからネズミたちは、前よりもっと、家から出てこなくなりました。でもネコはまだネズミを食べたくてたまらず、知恵も一つではありませんでした。ネコは小麦こがすっかり体につくまで、こなの中でごろごろころがり、それから小麦こ入れの中にねそべって、片目だけあけてネズミをまちました。

思ったとおり、ネズミたちはまもなく出てきはじめました。ネコは、まるでもう、まるまると太った若いネズミをつめの下につかまえたような気分でした。ところがそのとき、一ぴきの年とったネズミが、すんでいるかべの穴から、あんぜんなきょりのところで立ち上がりました。このネズミは、ネコやわなのことをよく知っていて、そのために、しっぽの一部までなくしたことがあったのです。

「気をつけろ！」と年とったネズミはさけびました。「あれはこなの山かもしれないが、わしにはネコにそっくりに見える。なんであろうと、あんぜんなところにはなれているのが、一番かしこいやり方じゃ。」

> **かしこい者は、二度とだまされません。**

たんご と クイズ　ネコと年とったネズミ

Cat ネコ	**Mouse** ネズミ（小さなネズミ）	**whiskers** ひげ
claws つめ	**shelf** たな	**flour** 小麦こ
Rat ネズミ（大きなネズミ）	**tail** しっぽ	

Q1 **ネコがはじめにしたさくせんは？**

① ねむったふり　② たなからぶら下がって死んだふり　③ ネズミのまね

Q2 **二つめのさくせんで、ネコはなにを体につけた？**

① 小麦こ　② どろ　③ 葉っぱ

Q3 **年とったネズミがだまされなかったのはどうして？**

① 目がとてもよかったから　② ネコとなかよしだったから　③ ネコやわなのことをよく知っていたから

こたえ

Q1 ②　ネコはたなの上からひもにつかまって、頭を下にして、死んだようにぶら下がりました。

Q2 ①　ネコは小麦このなかでごろごろころがって、こなの山のように見せかけました。

Q3 ③　年とったネズミは、ネコやわなでこわい目にあったことがあり、しっぽの一部までなくしていたのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：A LibriVox Volunteer（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。